

平成25年度(施策提案)

●優秀提案賞

提案テーマ	提案の要旨
産業現場等における実習の効果的な活用	障害者が働く場所(部署、あるいは特例子会社化、就労継続A型等)を設置し、そこに指導員(特別支援学校にて勤務経験のある方の再雇用等)を配置する。県庁内の業務を受けながら、併せて特別支援学校及び移行支援施設の実習、受託訓練等を受け入れてもらう。特に、特別支援学校1・2年生の現場実習を受けてもらい、適切な評価をもらうことで、その後の進路選択に役立てる。

●提案賞

提案テーマ	提案の要旨
子供たちの人権を守るためのいじめ防止手帳の作成と活用	彩の国生徒指導ハンドブックの子供・家庭版として、子供たちが学校・家庭で活用できる「いじめ防止手帳」を作成し、いじめ防止の一助とする。学校では学活や道徳の時間での活用を通して、いじめに対応方法を身につける。家庭ではいじめの早期発見につなげるなど、学校・家庭が連携したいじめ防止対策を実施する。
教職員向け「家庭学習ハンドブック」の作成～効果的な家庭学習で、目指せ！学力アップ！～	教職員向けに、児童・生徒の発達段階に応じてどのような家庭学習の例があるか、質・量を例示した「家庭学習ハンドブック」を作成し、活用してもらう。家庭学習の実態や放課後の過ごし方の特徴等を含めて掲載した内容とし、現場の教師がすぐに使えるアイデアを1冊にまとめる。必要に応じ、保護者会や入学説明会等の資料として活用することも可能であり、家庭・地域と連携して学力向上に取り組む一助となる。
グローバル化に対応する教員育成のための、小学校への中・高教員の柔軟な派遣	グローバル人材の育成のために、専門的知識を有する教員が適切な指導ができる環境を整えるための、小・中・高校教員の交流を行う。具体的には、中学校英語教員が拠点校となる小学校に常勤し、小学校の外国語活動のコーディネートをを行う。また、JICAとつながりの深い高校教員を小学校に派遣する。
学習カルテの作成	教科ごとに、年間指導計画に沿って、単元ごとに生徒が習得すべき事項を並べた学習カルテを1人1枚用意する。教員は、単元ごとに生徒の理解度をチェックし、記入する。また、生徒の理解が不足しているところを確認し、授業の改善に生かすとともに、次年度の引き継ぎ資料として活用する。また、生徒が学習カルテを見る機会も設け、カルテをもとに教員から学習方法についてアドバイスを受け、家庭学習等の改善に役立てる。
農のスペシャリスト養成セミナーの開催	県内農業関係8校の特色ある施設・設備を活用して、農業関係高校生徒に開放し、より専門性の高い発展的な学習を展開し、農のスペシャリストを育成する。農業高校の校長会が主催となり、月2回の土曜日や長期休業を活用して、35時間程度の講座を実施する。(4単位認定)。また、仮想LLC(有限責任会社)を設立し、農業マーケティングについても学ぶ。
退職教員のキャリアを活用した、全県的な進路指導支援ネットワーク作りの構築	特別支援学校において、特に進路指導主事を長年経験した退職教員を、退職後も「就労支援・キャリア教育担当」等として、その人脈やスキルを活用し、より確かな就労支援やキャリア教育支援の推進を図る。また、教職員への指導技術の継承も図る。総合教育センター内に、全県的な支援を可能とするための部署を設置し、退職教員を配置し、進路支援のネットワーク化を図る。
目指せグローバルリーダー、わが町の親善大使！～「彩の国大使」プレゼンテーション大会の実施～	ふるさとに誇りを持ち、その良さを世界にアピールできる人材を育成するため、高校生(中学生)に焦点を当て、自分の町や市(または埼玉県)のよさを英語で発信する機会を設ける。また、多様な審査員を集めた競い合う大会とすることで、様々な人に発信する機会をもつとともに、グループで参加することで参加者同士による啓発を図る。最優秀のグループには「彩の国親善大使」として海外派遣や各種イベントで、埼玉県のよさを英語でPRする機会を設ける。

平成24年度(施策提案)

●優秀提案賞

提案テーマ	提案の要旨
子供たちの生活にかかわる安心安全を守るための安心安全手帳の作成と活用	子供たちが学校・家庭で活用できる安心・安全手帳(ノート)を作成し、日常的・継続的に安全教育を受け入れたり、自分の安全について考えたりすることができようにする。また、安全教育に関する内容を一つにまとめることにより、授業で活用しやすくなるとともに、日常的に子供が自分の安心安全について考える機会を持つことができる。

●提案賞

提案テーマ	提案の要旨
体力向上！！埼玉っ子の育成～スポーツに触れる機会を多く与え、体力向上に臨む～	「教育に関する3つの達成目標」の体力の指標を達成するため、現在春1回のみスポーツテストを、春と秋に2回実施し、その成果を各家庭に配布し、さらなる体力向上へと取り組む意欲を持たせていく。
小中の連携 中学校の空き教室を利用した小中の連携～CLASSroom plus one の提唱～	中学校にある空き教室を小・中連携の教室とする～classroom plus one～を「小・中学校9年間を一貫した教育の推進」の柱の一つとして実践する。校区内の小学校は、可能な時間に、期間を決めて中学校の教室で授業を行う、連携の方法に応じて、中学校教員による授業も行う。
ジオパーク秩父で学習しよう	ジオパーク秩父を軸にした県独自の学習教材を開発する。教科書教材と関連させた秩父ジオパーク副読本の作成や、社会科見学の実施、理科現地実習のためのモデルコースパンフレットの作成や秩父ジオパーク学習webサイトなどの開設を行い、各教科の指導に活かす。
埼玉県 小学生保護者学習支援テキストの作成「お母さん・お父さんのための小学校の教科書」	小学生の保護者向け教科書を作成・配布する。児童が宿題や課題をする時、保護者がその教科書を用いて質問や疑問にアドバイスを送り、子供の勉強のサポートを家庭内で取り組んでもらう。
海外留学経験のある日本人・外国人留学生による海外に飛び立つ生徒育成キャンプ	グローバル化の進展で世界を視野に入れて活動していく人材が求められている。そこで、現役の留学経験のある日本人・外国人留学生による留学に関する情報提供をしたり、留学の意義や目的を話し合ったりする場を設けて、高校生の留学に対する意識向上と実質的支援を行う。
埼玉生まれのスポーツ 誰もが共に楽しめる「ブラインドテニス」の振興	障害の有無に関わらず、誰にでも、また、誰とでも楽しめるスポーツとしてブラインドテニスを広め、「埼玉県の生涯スポーツ」として、どこの地域でもプレーできるように普及していく。

平成23年度(施策提案)

●優秀提案賞

提案テーマ	提案の要旨
市町村における学校応援団人材バンクの作成	特色ある学校づくりに向けて各学校が学校応援団を組織していく中で、市町村や地域ごとに独自の教育活動がより活発になるために、教育活動支援にあたる個人、団体を公募し、学校応援団人材バンクを作成する。

●提案賞

提案テーマ	提案の要旨
いじめ・不登校・高校中途退学の防止(キャンパスエイドシステムの導入)	キャンパスエイドとは、学校の構内で援助する、すなわち「生徒に心理的支援をする学生」という造語である。限られた高等学校にしか、スクールカウンセラーが派遣されていない現状の中で、臨床心理士や学校心理士を目指す大学生及び大学院生のボランティア的ヘルパーによる高校生への心理的支援を実施する。
退職教員の教育力を活用した若手教員の資質向上プラン	優れた指導力をもつ退職教員を若手教員が多い学校に配置し、退職教員の教育力を生かして授業、事務的な業務、保護者への対応などの一日支援を行い、若手教員の資質の向上を図る。
進めよう小中連携！～小中一体たてわり活動～	小中学校間の接続の問題を解決するために、教員・児童・生徒の交流活動を行う。中学校区による児童・生徒のたてわり班を編制して、たてわり班による清掃、給食、遠足、運動会等へ発展させ、指導する教員の資質向上と児童生徒の豊かな心をはぐくむことができる。
家庭読書ウィークの創設～ノーテレビ・ノーゲームデイの中で～	県として、「家庭読書の日」あるいは、「家庭読書週間」を制定する。実施後の効果を検証してまとめ、広く県下に周知するとともに学校図書館教育担当者への研修会を実施し活用する。
「家庭学習わくわくネット」の整備	小・中学生の家庭学習を充実させ、より一層の学力向上を図るために、県や市町村教育委員会のホームページに、家庭学習のための課題を整備して掲載し、こどもたちがそれを利用することにより積極的に家庭学習に取り組むことができる。
学校における古紙リサイクルの推進と学習活動の拡充	古紙回収業者に学校から排出される古紙処分を委託するモデル事業を実施する。消却処分することなく機密保持したままりサイクルを行える学校環境の整備を検討する。また、古紙の分別等を作業学習や環境美化活動として取り扱う。

平成22年度(施策提案)

●優秀提案賞

提案テーマ	提案の要旨
「すこやか埼玉子どもカルタ」の作成	現在子育て中の保護者、子育てを終了した保護者、お年寄り等から子育ての思い出や子育てで心掛けている(きた)こと等を集め、乳幼児期の子育てのポイントを示したカルタを作成し、保育所、幼稚園、学校等広く関係者に配布する。県をあげて埼玉の子どもたちの健やかな成長を応援し、安心して楽しい子育て環境を作っていく。
全指導主事の指導力を保障する「学力向上」プレゼンの共有活用システムの構築	「学力向上」プレゼンテーションを作成し、各指導主事がこのデータを共有活用して、同じ質と量を備え同一歩調で県全体の「学力向上」の指導に当たる。また、各指導主事が「学力向上」プレゼンを活用しての修正改善点を随時取り入れながら、常に、最新の情報に基づいた、より各小中学校のニーズにあった、「学力向上」プレゼンの構築を図る。

●提案賞

提案テーマ	提案の要旨
「ようこそ！中学ティーチャー」～小学校学習指導要領実施期を活用した「ワンポイント小中連携」～	県内全小中学校での小中連携を推進する手立てとして、「ワンポイント連携」と称して中学校からの移行学習内容について、中学校の先生方に小学校対象学年に対して授業を実施していただく。また、連携授業一覧、実施マニュアル等を作成し、「ワンポイント連携」の資料とする。
出前授業による小中連携	小学校教員、中学校英語科教員、ALTが作成した指導案や授業で使用する教材などの共有化を図るためのデータベースを構築する。また、Jプランのように、小・中の人的交流を促進したり、小学校と中学校を兼務できるような制度を取り入れたりするなどして、小中連携の一環として中学校の教師が小学校で出前授業(外国語活動等)を行う。
生きる力と絆の授業プラン(指導案)～未来を担うこども達のために～	教育センターが中心となり、広く教員から指導案を募集し、小・中・高・大の教員・教授の協力を得て「授業プラン編集委員会」を組織し、教科ごとに授業プランとしてまとめていく。また、授業プランを編集することにより、小・中・高・大の教員・教授が交流し、互いに研修意欲も高まる。
学校・家庭・児童生徒を支援するHP「学力向上のための支援マップ」の作成	義務教育指導課及び各教育事務所で掲載している学力向上のための資料や事業における取組等の内容を一括整理し、「学力向上のための支援マップ」として集大成する。県民が、県教育局のどこにアクセスしても、学力向上関係の資料(埼玉県教育委員会の「学力向上」の全体像)を同じように見ることができ、活用できるようにする。
特別支援学校高等部版デュアルシステム(インターンシップ)の推進	特別支援学校にデュアルシステムを導入して、長期的に同一企業において現場実習(インターンシップ)を行うことにより、人間関係(コミュニケーション能力)や作業の専門性(スキルアップ)を目指し、より就労に結びつきを深め、生徒のキャリア教育・職業教育を推進する。
学校事務を組織化し、学校事務職員を最大限活用する	県内全域で学校事務の共同実施を行い、いつでも、どこでも、教育を強く支える高水準・広範囲の学校事務処理体制を整えるとともに、共同実施組織内でOJTを行い、事務職員の資質向上を図る。また、共同実施組織内に事務長を置き、若い事務職員の育成に当たらせるとともに校長を補佐し、保護者・地域と連携した学校教育の推進に寄与する。

平成21年度(施策提案)

●優秀提案賞

提案テーマ	提案の要旨
高等学校における特別支援教育推進のための「高等学校特別支援教育コーディネーター連携会議」の開催	県内の高等学校を4つの地区に分け、それぞれの地区に特別支援教育コーディネーター連携拠点高等学校を指定する。各連携拠点高等学校は、高等特別支援学校の助言・援助のもと、「高等学校特別支援教育コーディネーター連携会議」を定期的に開催する。各高等学校の特別支援教育コーディネーターは連携し、その資質の向上を目指す。
特別支援学校高等部卒業生の企業就労拡大のための、「企業向け、全県特別支援学校からの障害者就労・実習紹介カラーパンフレット」の作成	特別支援学校卒業生の就労支援を一層拡大するため、企業に対して積極的に特別支援学校からの就労実績や職場実習などの企業の社会貢献・障害者採用に向けた制度の紹介ができるよう、全県統一の「企業向け、全県特別支援学校からの障害者就労・実習紹介カラーパンフレット」の作成を行う。
もう待てない！知的障害を持つ子ども達の1度きりの就労のチャンス～企業と学校の出会いと結びつきを推進するための取組～	労働局と特別支援教育課が共同し、障害者の雇用に関心を持っている企業に対し学校見学会や障害者理解のための研修会等を実施する。学校と企業との出会いの場を広げることにより、知的障害を持つ生徒の雇用に理解を示す企業を増やしたい。

●提案賞

提案テーマ	提案の要旨
豊かな心を育てる読書活動の推進	児童生徒が積極的に図書館で専門職員(司書)とふれあい、自分に合った良い本と出会いながら、自らの読書力を向上させていくきっかけをつくるための埼玉県共通の読書カードの作成。児童生徒が自ら出会った本の楽しさを「小説」や「絵本」にしてほかの人に伝え、さらに創作の喜びや意欲を感じていける「コンテスト」の実施。
”Precious Stories of Saitama-ken”を使って英語の表現力を高める取組	県内各地域の自然・歴史・伝統芸能・産業・偉人を取り上げた地域英語教材を各学校で活用し、英語の表現力を高めていく。そして、英語で自分の郷土について自信を持って発表したり、自国の立場を明確に主張したりしながら、互いに協調し合って生きていく力をつけていくことも大切であるとする。
自然体験・環境体験等を通して豊かな心をはぐくむ教育	埼玉県立げんきプラザを利用して、小規模学校(2校程度)が連携協力して宿泊体験を実施する。自然体験学習・環境体験学習、集団活動等を実施することで、豊かな心をはぐくむ。小規模学校の児童生徒と一緒に交流・活動することで、協力や思いやりの気持ちををはぐくむ。また、お互いに学校文化や学校の伝統を知ることができ、生き方について考えることができる。
「埼玉の食材食べつくし料理コンテスト」	「埼玉県食育推進計画」を踏まえ、食文化や食事の大切さを次世代に伝えるためにも、安全・安心な食材でもある埼玉県産の農産物を使用した料理コンテストを行い、健康の保持・増進を進めるとともに、地産地消の推進を図ることにより、埼玉県農業を教育からもバックアップする。
学校版「エコライフDAY」の実施	地球温暖化問題や環境を守るために、各県立高校の教職員、生徒が一体となり電気、ガス、水を節約し、学校をあげて光熱水費のダイエット(エコロジー)に取り組む。県費の中の光熱水費が占める割合が前年度と比較して減少するなど、最も取組みの良かった県立学校に、「彩の国エコロジー大賞」を与える。
本当に家庭教育支援が必要な保護者と携帯メール(家庭応援マガジン)で絆を深める	家庭教育を支援するため、県教育委員会と学校は協力して「家庭応援マガジン」を発行し、全保護者等の携帯電話に送信する。
家庭教育支援体制を充実するための取組	育児やしつけ等について、拠り所となる事柄などをワンポイントアドバイスとして、メールリストを利用して携帯電話に配信する。内容は、「しつけの基本は、挨拶・返事・履き物」など、簡単なものから、短い文章でまとめる。

平成20年度(施策提案)

●優秀提案賞

提案テーマ	提案の要旨
中学校教諭対象の高校説明会の実施	中学生の高校選択に資するために、中学校教諭が県立高校に関する理解を深めるための高校説明会を研修会形式で実施する。
彩の国「高校進学合同説明会・情報交換会」の実施	中学生の望ましい進路選択の援助を行うために、夏季休業中に、中学校教員を対象にした東西南北4地区で合同説明会を開催する。
J&Jプラン(Jプランの積極的活用・生徒指導の充実のために)	Jプラン(小学生が中学校に進学するにあたり円滑な適応を図るための教員の人事交流)により中学校の教員が小学校へ配置される現行の事業を一部見直し、当該小学校と当該中学校間で、相互に職員の交換を行い、発達段階を踏まえた積極的な生徒指導の充実を図る。
インターネット体験を通じた家庭教育支援	親が、インターネットの影の部分を経験し、子どもが置かれた厳しい環境を知ることを通して、家庭教育への支援を充実させる。

●提案賞

提案テーマ	提案の要旨
「学校エコステーション計画」～学校応援団との連携～	平成23年度までに、全県において学校応援団が設立される。学校を地域のエコステーションとし、ごみ問題や緑化活動を推進する。また、地域の大人を巻き込んで、協働し、共に学び、環境問題に小さな一歩を踏み出していくことを目指す。
「後期中等教育における交流及び共同学習の推進」のための取組	県内の高等学校と特別支援学校高等部との交流及び共同学習の取組状況について調査し、その実態を把握する。また、高等学校内に設置された特別支援学校高等部分校と設置高校との交流及び共同学習についての実践事例集を作成する。
たかめる・たかまる体力！	運動・スポーツ好きの児童生徒の育成を目指し、高校・大学の運動部と連携し、各分野で専門的に取り組んでいる学生をボランティアとして活用していく。
誰もが気軽に資料を活用できる「教職員資料バンク」の設立	各学校が取り組んでいる学校課題研究や様々な研究団体で行っている研究などを一括して、教育センターのパソコンサーバーに情報を収集し、誰もが気軽に活用できる「教職員資料バンク」を設立する。

平成19年度(施策提案)

●優秀提案賞

提案テーマ	提案の要旨
携帯電話会社、インターネット会社、警察、教育委員会が共同参画して、ネット犯罪防止マニュアルを作成	プロフ・ブログ開設に伴いじめ、携帯電話の多額の使用料金、授業中の使用による学習活動の阻害などの課題への対応のため、携帯電話会社、インターネット会社、警察、教育委員会が共同参画し、ネット犯罪防止マニュアルを作成する。
新設市町村障害者就労支援センターと特別支援学校との障害者就労連携モデル推進事業	特別支援学校卒業生の企業就労を一層拡大するため、新設市町村障害者就労支援センターと特別支援学校が障害者就労に向けて連携を進めるためのモデル事業を研究し実践する。今後5年間に順次新設される市町村障害者就労支援センターと特別支援学校の障害者就労支援連携を、モデル事業を基礎に順次県内の特別支援学校に拡大する。

●提案賞

提案テーマ	提案の要旨
ボランティアを活用して基礎基本の一層の定着を図る取組	児童生徒の基礎基本の一層の定着を目指し、地域の方を授業のボランティアとして組織し、授業中における児童生徒への個別支援や教師の指導補佐などに、年間を通じて活用する。
中高の連携による中途退学防止策及び校内組織体制の確立	高校の中途退学の防止 ・中学校欠席日数30日以上「中高連携個票」の作成、活用 ・月3日間以上欠席「ほうれんそうカード」「中退防止対策会議」
生徒指導困難校の指導困難校の指導効果を高める中高連携体制の確立	生徒指導が困難な高校が、趣旨に賛同する各中学校と中高情報共有化委員会(仮称)を発足し、生徒指導情報を相互交換することにより、中高一貫の協働生徒指導体制を確立する。
楽しみながら食べよう	子どもたちの食生活の改善のため、食べ物のおいしさの言葉がけ集を作成する。低学年でもわかりやすく、少しでも食べたいような言葉がけの例を募集して、よいものをピックアップする。
失敗を成長に変えたデータベースの構築	団塊の世代の大量退職により、多くの優秀な教員が現場を去る。「失敗を成長に変えた瞬間」をデータベースとして記録・蓄積し、今後予想される「若い学校」現場において、様々な方法で活用する。
ストップ温暖化・緑のカーテン大作戦	地球温暖化に伴い、環境教育の充実が問われている。教室の南側に多くある花壇等から網を2階3階のベランダにかけて張り、そこに「ニガウリやヘチマ、ひょうたん」を植える。
「学校応援団」設立までの歩み資料集(設立までのノウハウ集)	「元気な学校づくり」が喫緊の課題であり、平成23年度までに県内すべての小学校での組織を目標としている。設立までのマニュアル的なものを作成し、設立の促進をはかり、23年度までに100%を目指す。設立までの様子、スムーズに進んだところ、苦労したところなどのノウハウを紹介する。活動の様子、資料を県教委のHPに載せる。

平成18年度(施策提案)

●優秀提案賞

提案テーマ	提案の要旨
ヤングキャリアセンター埼玉との連携推進事業	ヤングキャリアセンター埼玉と連携を行い、予防的観点からのキャリア教育を学校全体の取り組みとして研究し実践する。県下でキャリア教育を必要としている高校数校を「ヤングキャリアセンター埼玉連携推進校」として指定し、キャリアカウンセラーの派遣などを求めながら、4年間の研究推進を行う。
彩の国ものづくり支援隊	専門高校の生徒や技術を持った高校生をボランティアとして募集し、小中学生を対象に、先端技術を講義・演習によりわかりやすく解説したり、コンピュータ操作の指導などを行う取組を実施する。

●提案賞

提案テーマ	提案の要旨
家庭における教育を支援するための情報の提供について	家庭教育誌の創刊にみられるように、家庭教育に対する適切な情報ニーズが保護者に高まっている。「彩の国教育だより家庭版」のようなビジュアルを意識した形で、保護者のニーズや、時節にあった情報を月2回程度作成する。情報は、メール等を利用して各学校に配信する。
小・中学校における地域人材を活用した「寺子屋」制度	放課後の空き教室を一室、「寺子屋」として常設し、地域の方から登録制度で人材を募り、自主学習の補助を行う。
未来への扉 夢ビジョン力を育もう	小中学生のときの夢を実現している人たちの、当時の夢を書いた文集と夢実現の過程、現在の活躍している様子などを載せたキャリア教育の指導資料を作成する。
サイエンス・サマープロジェクトによる科学的思考力の育成	小中高の児童生徒を夏季休業中に集め、一週間程度の期間、与えられたテーマを異年齢混成チームで仮説課題探究を行わせる。その際、現職理科教員のみならず、退職教員や科学ボランティア、大学・研究所等の研究者など外部人材も積極的に活用する。
みて・さわって・体験事業「ミュージアム・キャラバン」	教員向けガイドブックを作成し、資料の貸し出し、出前講座、各種体験教室、学芸員によるクイズショーなどを行い、学校向けの学習支援策の充実を図る。

平成17年度(施策提案)

●優秀提案賞

提案テーマ	提案の要旨
学級経営・生徒指導の具体的方法・対応策の共有化について	学級経営・生徒指導上におけるできるだけ具体的な場面において効果があった児童への言葉かけの実践例を教員から集め、「児童が輝く言葉かけ」集を作成する。
教員の指導力向上を図る取組[仮称:はつらつ先生オープンクラス]	県内の授業の達人が行う授業を単元を通してビデオ録画し、ビデオライブラリー(DVD保存)として各学校又は市町村教育委員会に配布する。教員がそれを視聴し、自身の授業の工夫及び改善に役立てる。

●提案賞

提案テーマ	提案の要旨
すぐに使える「教育に関する3つの達成目標」実践事例集	各学校において実施され効果をあげているカード、ポスター、アンケート、保護者への便り等の具体的な実践例を集め、冊子にまとめ公表する。
高等学校における特別な教育的支援を必要とする生徒の支援に向けた取組	高等学校に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒の現状を把握し、高等学校において組織的に取り組むための校内支援体制を確立する。
県立高校「新国語力」向上プラン	高校生の「新国語力」向上のための研究開発校を指定し、「新国語力」に関する学校設定科目の開発等の研究を行ってもらう。研究開発校における研究・開発を支援するために、「新国語力」向上コーディネーター(専門員)を養成し、配置する。
県立学校ホームページ大賞の創設	学校の特色がホームページ上に的確に表現できているか、また更新が適時になされているか等を評価し、大賞と副賞、場合によっては特別賞を教育長が授与する。
大学・大学院との連携による教員の資質向上	教育委員会及び小・中学校と大学・大学院が連携して、効果的な教員養成や現職教員の資質向上を図る。教員養成については、長期展望に立って、大学・大学院生を受け入れ、教員としての即戦力の育成を図る。現職教員の資質向上については、長期の研修を受ける教員に対し、研修成果を即現場で生かすために、自校の課題と関連した研究テーマを設定させ、研修終了後も、研修した大学の指導教員を招いて、事例研究を中心に演習を行わせる。

平成16年度(施策提案)

●優秀提案賞

提案テーマ	提案の要旨
学び合いの小窓「心のふれあい」体験文集	子どもたちとの関わりの中で教員が学んだ様々な「心のふれあい」の体験談を冊子としてまとめ、他の教員への生きた啓発教材として活用する。

●提案賞

提案テーマ	提案の要旨
学校・家庭・地域が連携し子どもを育む「子育てサポートチーム(仮称)」の設置	学校・家庭・地域が連携し、子育ての悩みを抱える保護者をサポートするために、学校職員、PTA役員、さわやか相談員、子どもを知る他の保護者などで構成される「子育てサポートチーム」を組織し、個別の訪問を行うなどの相談体制を整備する。
副校長の導入による学校組織の再編	学校の管理職として、従来の校長と教頭に加え、副校長職を制度化し、1校3名構成とする。教頭は、指導担当、副校長は、管理担当とする。副校長は、一般行政職との人事交流や他職種等民間からの登用を多くし、民間人の校長への登用はこの副校長からの登用とする。
教科指導資格者認定試験(高等学校)の実施	教育局内に選考担当を設置し、希望者の中から、筆記試験、校長推薦、面接、実績等により教科指導資格者を選考する。資格取得者については、教科指導において他の教員への指導権限を持たせ、各種研修会等での指導にあたらせるとともに、給与や人事において優遇する。
学校運営の要となる教員の意識改革と資質向上をめざした「20年経験者研修の実施について」	在職期間が20年に達した者を対象に、教科・生徒指導に関する研修、組織マネジメントの方法に関する研修、職員の健康管理に関する研修などの内容について、年間20日程度の研修を実施する。研修の評価は、各自が設定する目標と実践結果に基づいて実施するものとする。
小学校における『彩の国教育活動博覧会』開催による「生きた」学校情報の提供	彩の国教育週間などの一日、「彩の国教育活動博覧会(仮称)」を各学校が開催し、学習面だけでなく、学校経営や学校の安全対策など幅広く保護者や地域などに公開し、学校改革の糸口としていく。学校評議員参加による、学校課題についての討論会も考えられる。

平成15年度(施策提案)

●優秀提案賞

提案テーマ	提案の要旨
確かな学力を定着し、伸びる子を伸ばす彩の国教育の推進	「県立高校特色化企画事業」などの関係諸施策を活用し、数校を「進学指導研究指定校」に研究指定して、少人数学級編成などを実施する。また、総合教育センターを中核基地として教材等を整備した上で各校に貸し出しそれを指導できる専門職員を置く。
彩の国アドミッションセンター(仮称)の設立	伊奈学園中学校の適性問題、県公立高校入試問題及び教員採用試験問題の作成、調査・研究、入試情報等の提供を行うための彩の国アドミッションセンター(仮称)を総合教育センター内に設立する。
不登校児童生徒の学校復帰のための取組	「適応指導教室」を「自分探し支援センター」と改め元教員による学習指導、臨床心理士によるカウンセリングなど一人一人にあった方法で支援していく。また、家に引きこもっている不登校児を持つ親をサポートする「親と子の支援センター」を設置し訪問型支援の拠点にする。
学校教育目標の共有化と実現を目指す学校経営	校長が示した学校経営方針を踏まえて教員一人一人が1年間を見通した自分の課題を設定の上、実践をし、その実践の過程で校長が助言し、年度末にその成果を1冊にまとめて発表する。

●提案賞

提案テーマ	提案の要旨
地域における異校種人材の活用	高校の理科教員が小学校の授業にTTなどの方法で参画し、実験を多用した分かる授業などを行い児童に確かな学力を身に付けさせる。また、小学校教員の理科の指導力向上を図る。
不登校児童生徒の学校復帰のための施策	隣接する小中学校を統合するなど、小中併設校を設立し、学校行事を可能な限り小中合同で実施するなど、児童生徒、また、小中の教員が交流し、現在の小学校生活と中学校生活との落差をなくし、9年間ゆとりをもった教育を推進することにより、中学入学後の急激な不登校の増加を解消する。
不登校加配教員には生徒指導長研修了者を	「生徒指導研究推進モデル校(不登校加配)」の加配教員には生徒指導担当研修教員(生徒指導長期研修)または学校カウンセリング上級研修会修了者を、県教育委員会が任命する。
学校グランドデザインを全ての県公立小中高等学校で作成・公表・評価	全ての公立小中高校において、校長のリーダーシップのもと、保護者等に、育成したい児童生徒像、学校の経営方針、教育内容についての学校のグランドデザイン(全体構想)を作成し、公表する。そして、その内容の結果については、外部の方々から客観的な評価を受け、学校改革に有効に活用する。